

◆今回の報告・審議内容

調査目的

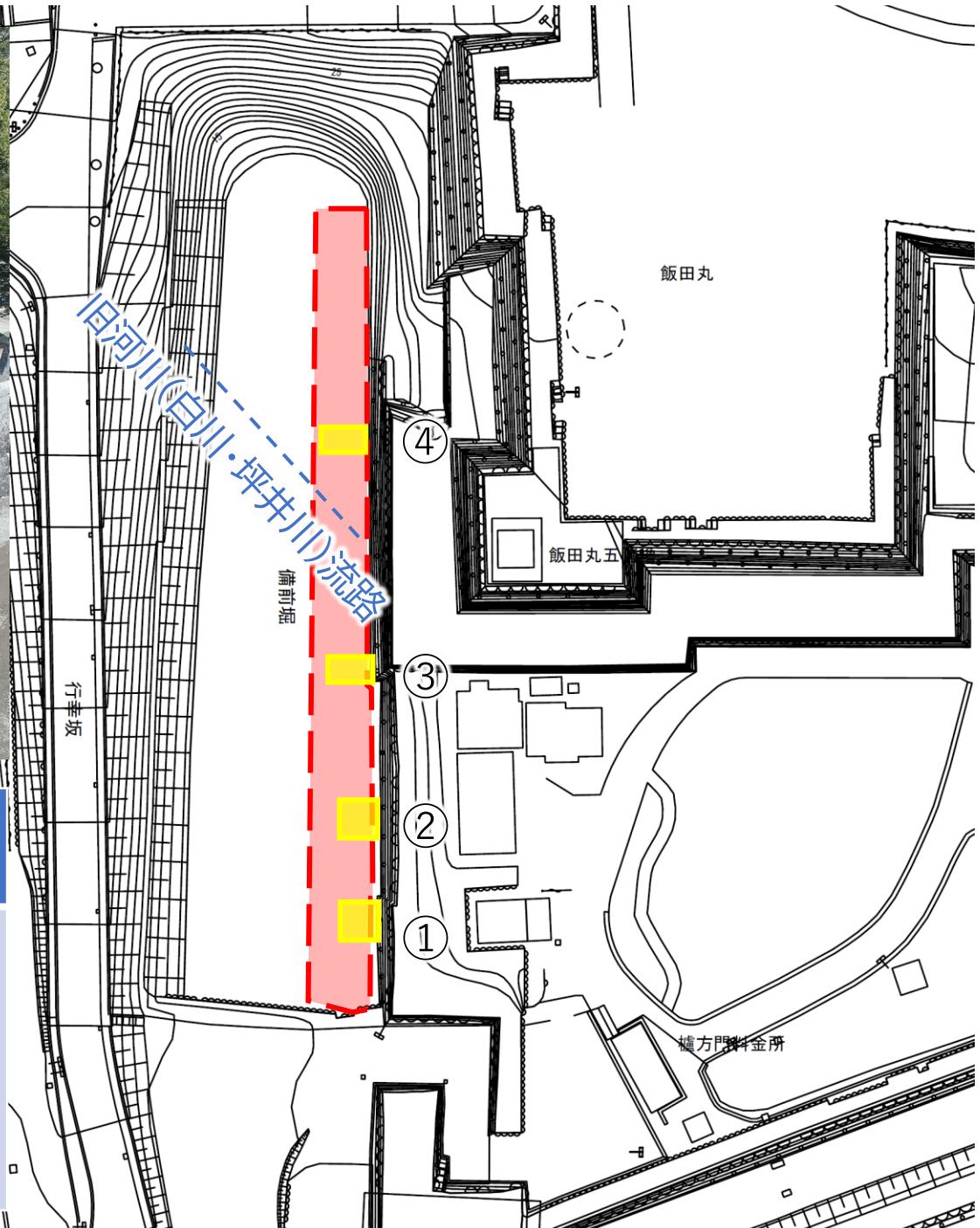
昭和63年備前堀浚渫時に石垣根石を確認している。この時の確認地点を再掘削することで備前堀の最終遺構面の形状と、石垣根石及び根固め遺構等の確認を行い、今後の復旧事業を遺構保護の観点から円滑にできるように本質的価値の情報を取得することを目的とする。

調査手法

昭和63年調査時の写真に写る築石から当時の掘削箇所を同定し、それと同じ場所に調査区を設定する。(下図赤枠範囲内の黄色部分)



備前堀周辺石材回収・浚渫作業完了(南西から)



番号	調査区	幅・長さ・深さ	目的
①	1 トレンチ	幅3.0m × 長さ3.0m × 深さ1.0m	最終遺構面の把握 ・石垣根石の確認
②	2 トレンチ	幅3.0m × 長さ3.0m × 深さ0.5m	
③	3 トレンチ	幅4.0m × 長さ3.0m × 深さ1.0m	
④	4 トレンチ	幅4.0m × 長さ3.0m × 深さ1.0m	

1 トレンチ：最終遺構面の把握・石垣根石の確認
(幅3.0m×長さ3.0m×深さ1.0m)



浚渫時根石確認状況 (S63/12/7)



H596・H594境界 崩落石材回収後 (R5/1/18 西から撮影)

2 トレンチ
：最終遺構面の把握・石垣根石の確認
(幅3.0m×長さ3.0m×深さ0.5m)



浚渫時石垣埋没部確認状況 (S63/10)



H596 崩落石材回収後 (R5/1/18 西から撮影)

3 トレンチ：最終遺構面の把握・石垣根石の確認
(幅4.0m×長さ3.0m×深さ1.0m)



浚渫時根石確認状況 (S63/12/7)



H256・H596崩落石材回収後 (R5/1/18 西から撮影)

4 トレンチ：最終遺構面の把握・石垣根石の確認
(幅4.0m×長さ3.0m×深さ1.0m)



浚渫時根石確認状況 (S63/12/7)



H256石垣 (R5/2/14 西から撮影)